

平成9年度第2回企画展



～金原遺跡へのいざなり～



平成9年6月12日（木）～平成9年8月24日（日）

宮代町郷土資料館

目次

目次	1
開催にあたって	2
金原遺跡をとりまく環境	3
宮代町遺跡分布図	4
金原遺跡群の概要	5
金原前遺跡実測図	6
縄文時代のすまい	7
縄文時代の住居変遷図	9
縄文時代の道具	11
縄文人の祈り	13
最近の発掘調査から	15
記録（新聞から）	16
参考文献	17
金原遺跡案内図	18

開催にあたって

かねはら

金原遺跡は、平成16年度埼玉国体のアーチェリー会場である（仮称）金原運動公園建設に伴う事前の発掘調査として平成8年10月から11月にかけての2か月間と、平成9年3月から現在に至る約3か月にわたり行われています。現在もまだ調査中ですが、縄文時代の貴重な遺構や遺物が数多く発見されています。

まいぞうぶんかざい

金原遺跡などの埋蔵文化財は、私たちの先祖が大地に残した貴重な足跡です。そして、発掘調査という作業によってのみ太古のくらしが明きらかとなるのです。

郷土資料館では、これらの成果を多くの皆様方に一刻も早くご覧になっていたいだきたく「企画展金原遺跡発掘出土品展」を開催することとなりました。私たちの先祖の生活した跡が約4,000年の眠りから現代に甦りました。この機会にぜひ、金原遺跡の発掘現場へも足をお運び下さい。

また、この展示を通じて私たちの先祖が残した貴重な文化である埋蔵文化財に対する関心や理解を深めていただくことができれば幸いに存じます。

平成9年6月12日

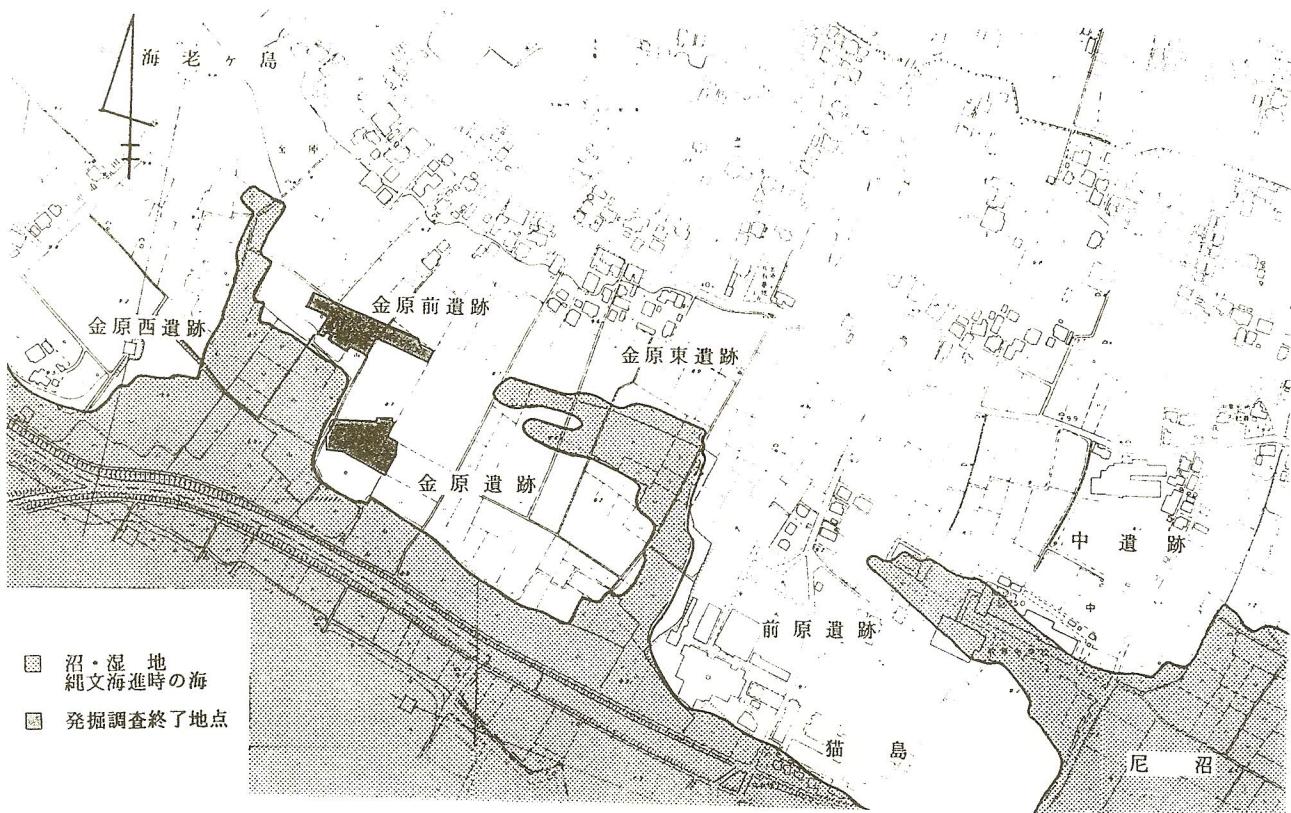
宮代町郷土資料館

金原遺跡をとりまく環境

金原遺跡は、宮代町の南部に位置し、隼人堀川を挟んで白岡町、春日部市と対峙しています。この遺跡は、前原遺跡と同様に東地区の西光院から金原地区に至る東西に長い台地から猫の手状に突き出した地形に位置し、東西南三方に湿地を望みます。この湿地は、江戸時代前半から中頃にかけての新田開発で新たに水田となりましたが、それ以前は、沼地であったことが前原地区に残る尼沼や猫島などの小字からも推定されます。

江戸時代よりはるか昔の縄文時代前期（約6,000年前）、今よりも海面が約3m程高く、しかも深い谷を形成していたと推定されますので、江戸時代沼地であった場所は海であったことは明らかとなっています。以前、金原遺跡の西側の水田を約5mほど掘削した時、貝殻が多量に出た事もその証拠といえましょう。

このように、金原遺跡に住んでいた縄文時代の人々は、周囲を海や沼、森林に囲まれ、魚や貝などの海産物や森林から採れる木の実、そこに住みつくシカやイノシシなどの動物と共に共生し、食料を調達しやすい環境からこの地に住みついたと考えられます。



金原遺跡周辺図



宮代町遺跡分布図

金原遺跡群の概要

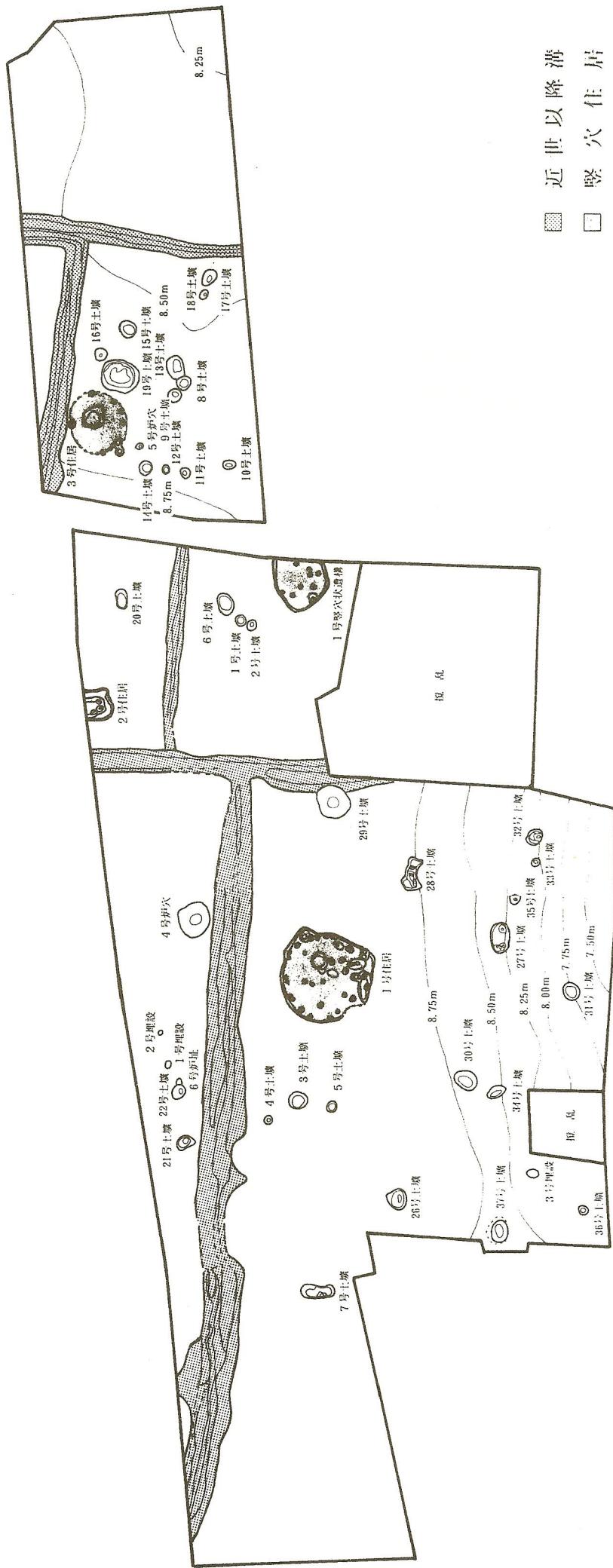
金原地区に残る遺跡は、金原遺跡、かねはらまえ 金原前遺跡、かねはらひがし 金原東遺跡、かねはらにし 金原西遺跡などがあります。いずれも縄文時代海であった場所のすぐ近くにあり、金原地区が縄文時代の人々にとって非常に住みやすい環境であったことが推定されます。

現在までの発掘調査では、調査予定面積（金原運動公園予定地）の1／10が終了したに過ぎませんが、縄文時代中期から後期（約4,000年前～約3,500年前）にかけての建物の跡が7軒、胎盤や幼児を埋葬したと思われる埋甕が4基、その他、貯蔵穴などの土坑が約50基程が確認されました。また、縄文時代の人々が使った道具などもたくさん出土しています。これらからも、金原遺跡に多くの人々が長い間継続して住んでいたことが明らかとなりました。



縄文時代のムラ（推定図）

金原前遺跡実測図



縄文時代のすまい

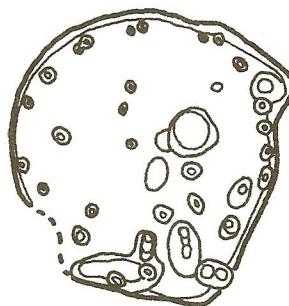
縄文時代の人々は、地面に穴を10cm～50cm程掘りくぼめた竪穴にさらに柱を立てるための穴を掘り、屋根を葺いて住居を建てました。そして、その真ん中に炉（炊事場）を造りそこで食事をし生活したようです。

一般的な縄文時代のムラでは、建物の跡が半円形状や馬蹄形状に配置されますが、金原遺跡群では、調査終了面積が少ないため、それらの傾向は、明らかではありませんが、比較的建物跡が集中して発見されています。

現在までに、縄文時代中期の建物跡が1軒、縄文時代後期の建物跡が6軒見つかっています。

No. 1 金原前遺跡 1号竪穴住居

直径6mを計る大型で、南側に出入り口をもつ住居跡です。3号炉に壊された直径1m前後の円形の穴の中から炉側に斜めに傾く形で大型のほぼ完形の土器が出土しています。出土した土器などから縄文時代後期前葉と推定されます。



1号住居

石器は、打製や摩製の石斧とともに磨石なども見つかっています。なお柱跡の多くは、竪穴住居跡内に傾斜しており柱が建物の中心に向かって建てられており、詳細な調査研究を行えば建物の高さなども分かると考えられます。

No. 2 金原前遺跡 2号竪穴住居

住居跡の一部を発掘したに止まりますので全体の形態は分かりませんが、おそらく柄鏡型をした竪穴住居であると推定されます。発掘した部分は柄鏡の柄の部分つまり住居の出入り口部分であると推定されます。この住居跡からは、縄文時代中期後葉（約4,000年前）の多量の土器が出土しています。

No. 3 金原前遺跡 3号竪穴住居

発掘調査前の陸田の段階すでに竪穴住居の掘り込み部は削られていたため、炉と柱穴のみ検出しました。時期は、縄文時代後期初頭（約3,500年前）と推定されます。投網に用いたと推定される土

鍤も2点出土しました。

No 4 金原前遺跡1号竪穴状遺構

炉の跡が検出されませんでしたが、柱穴は確認されました。ここからも縄文時代後期初頭（約3,500年前）の土器が多量に出土しており、おそらく小型の竪穴住居だと推定されます。

No 5 金原遺跡1号竪穴住居

現在調査中のため詳細は不明ですが、この住居跡も陸田により半分ほど削られた上、掘り込み部も既に削られた状態で発掘されました。

本来は楕円形状の住居であったと推定されます。出土土器から縄文時代後期（約3,500年前）と推定されます。

No 6 金原遺跡2号竪穴住居

現在調査中のため詳細は不明ですが、出入口部が南側についた柄鏡型の竪穴住居だと推定されます。この住居からは、耳飾りや石斧などの石器も見つかっています。

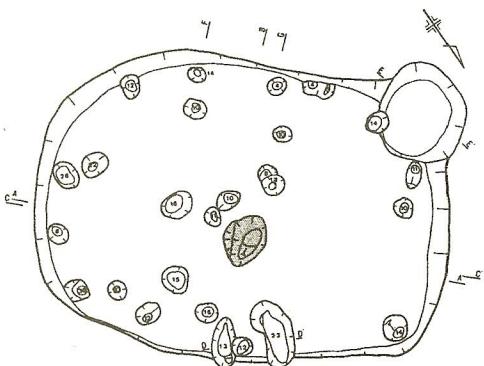
No 7 金原遺跡3号竪穴住居

現在調査中のため詳細は不明ですが、直径8mを計る大型で円形の住居だと推定されます。真ん中に大きな炉がつくられ、石斧や完形の小型の土器も出土しました。出土遺物から縄文時代後期（約3,500年前）と推定されます。

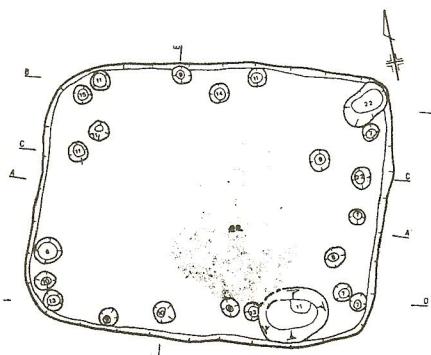


縄文時代の住居変遷図

縄文時代早期の竪穴住居（約8,000～7,000年前）



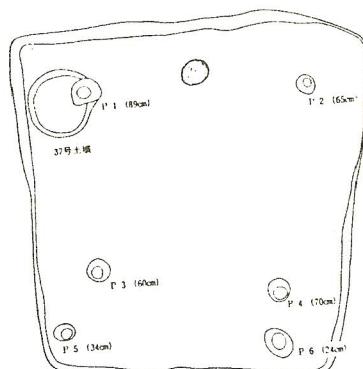
前原遺跡 7号住



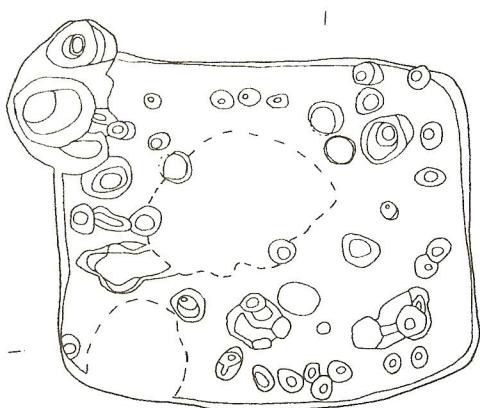
前原遺跡 5号住



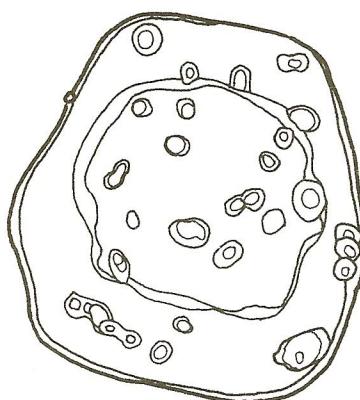
縄文時代前期の竪穴住居（約6,000～5,000年前）



天神前遺跡(蓮田市)

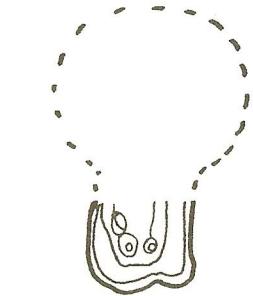


地蔵院遺跡 H元 4号住

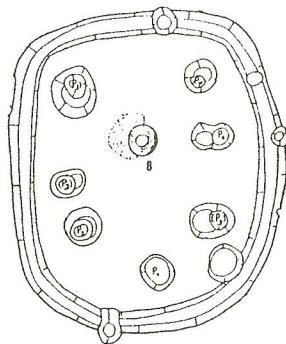


地蔵院遺跡 S63 6号住

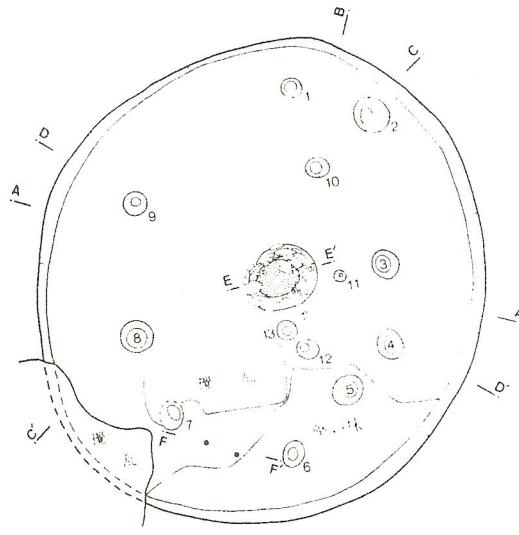
縄文時代中期の竪穴住居（約5,000～4,000年前）



金原前遺跡 2号住



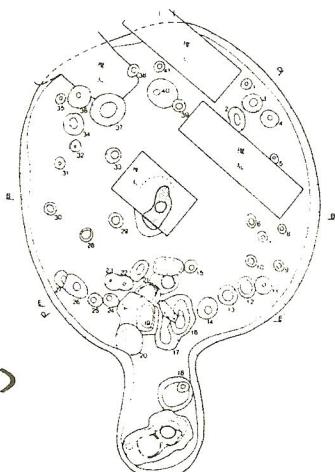
花積貝塚（春日部市）



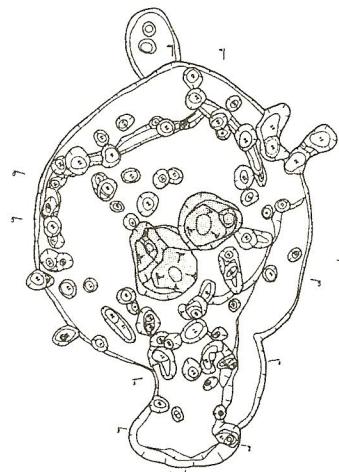
御藏山中遺跡（大宮市）



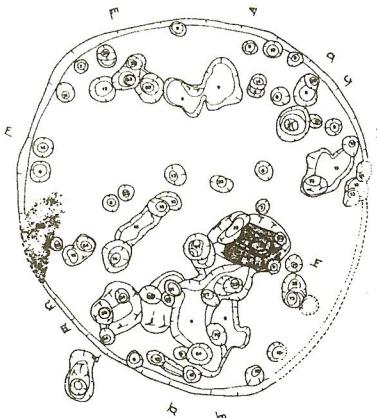
縄文時代後期の竪穴住居（約3,500年前）



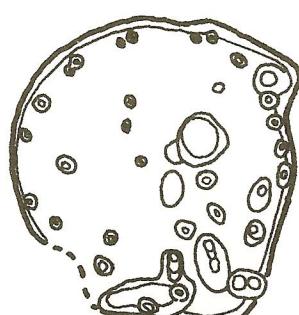
下加遺跡（大宮市）



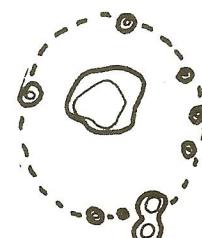
前原遺跡 8号住



山崎南遺跡 S59 1号住



金原前遺跡 1号住



金原前遺跡 3号住

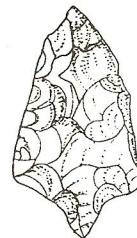
※縮尺は一律ではありません。

縄文時代の道具

縄文時代の人々は、現代人のように包丁やシャベル、ノコギリなどの道具を買
う事なく自分たちで作り出しました。そして、作る道具の用途に応じて最良の石
材を選び、時には遠隔地の石材を加工することもあったようです。金原遺跡で出
土している石器のなかには、北関東産の黒色安山岩や長野県や伊豆方面で産出さ
れる黒曜石、新潟県が産地のヒスイなども見つかっています。これらの石材で弓
矢の先に取り付けるヤジリや木を切ったり穴を掘ったりする時使った石斧、木の
実を磨り潰したり割ったりする時使った石皿・凹石・磨石・叩石などを作り出し
ました。

No. 1 ヤジリ

金原遺跡で出土したヤジリは、いずれもチャート
などの比較的堅い石から出来ています。ヤジリは、
弓矢の先につけて遠い所いる獲物など正確に射止め
るために使われました。

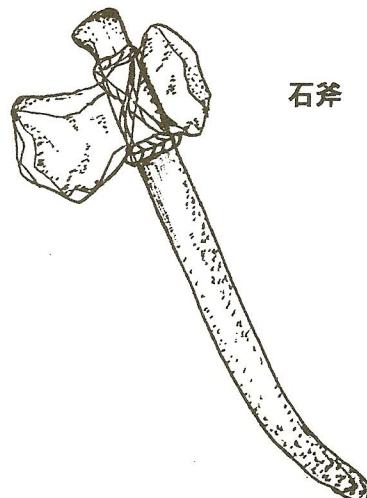
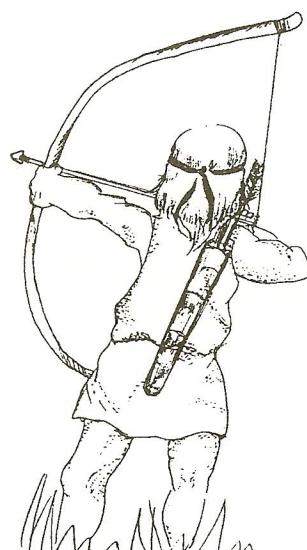
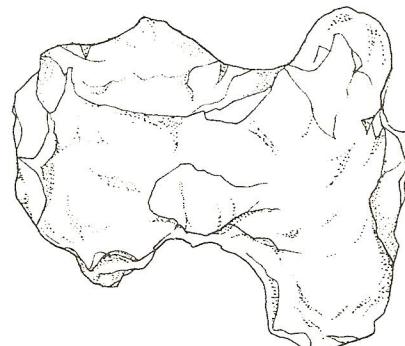


No. 2 石斧

打製石斧と磨製石斧が出土してい
ます。

ヤジリ

用途は現代の斧と同様、木や骨な
どを切断、あるいは削るための工具
として使われました。また、打製石
斧の一部は現代の鍬のような土掘り
用の道具としても使われたようです。



ヤジリを使っている様子

No. 3 石皿・磨石

石皿は、磨石とセットで使われたもので、トチの実やドングリ、山芋などの製粉加工を目的として使われました。



石皿を使っている様子

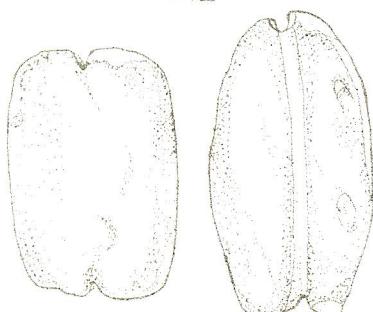
No. 4 凹石・叩石

凹石は、叩石とセットで使われたもので、

「くぼみ」を利用して木の実などを割る道具として使われました。石皿の裏面等を凹石として使われた例も出土しています。



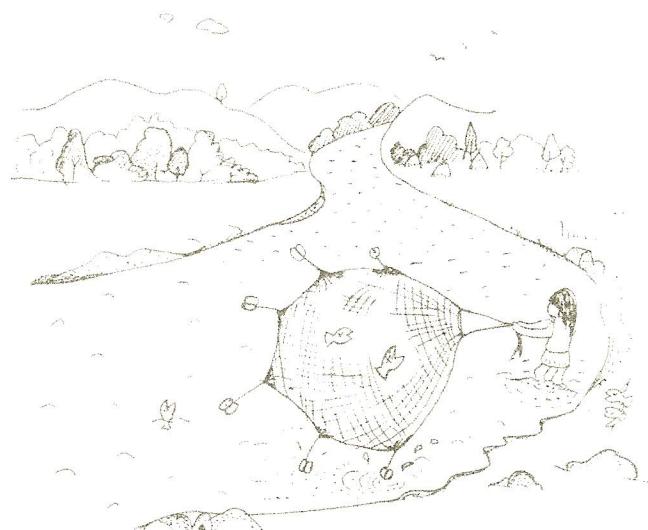
No. 5 土錘



土錘

土でできた漁網のおもりです。土器が壊れた後、おもりに加工し直したものも出土しています。縄文時代のリサイクルといえるでしょう。

凹石



投網をしている様子

No. 6 耳飾り

金原遺跡 2号住居内から出土しました。半分に割れた状態で出土しました。逆井遺跡では完形の耳飾りが出土しています。

縄文人の祈り

石斧やヤジリなどは、食料獲得のための生産具や工具として、土器や石皿などは、食料を加工する調理具として使われたことは、形態などからも明きらかな道具といえます。一方、形態だけではどのような目的のために作られたのか分からぬ道具も数多くあります。例えば、土偶や石棒、埋甕などですが、これらの道具は一般的に呪術や儀礼に関係するものだと推定されます。

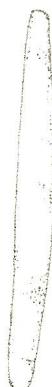
縄文時代の人々は、現代人よりもこのような呪術や儀礼が生活に密着して存在していたことは、諸外国の民俗事例や各地の考古遺物からも容易に推定できますが、金原遺跡でもこれら呪術や儀礼と関係すると思われる遺物が確認されています。

N o 1 ベンガラ（赤色顔料）が付着した磨石

磨石の上端部と下端部のみベンガラが付着しています。この部分で赤色顔料を作り出したことが伺われます。

N o 2 石棒

用途は不明ですが、おそらく祭祀的なものとして使われたと推定されます。金原前遺跡1号埋設土器とセットで出土したものと単独で出土した小型でよく磨かれたものとが見つかっています。金原前遺跡1号埋設土器とセットで出土した石棒は上端と下端が折られさらに半裁されている状態で出土しました。

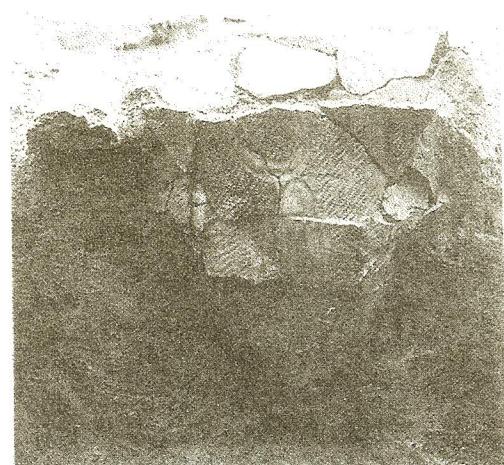


石棒

N o 3 金原前遺跡1号埋設土器

埋甕（埋設土器）は、一般的に死産児などの甕棺として人の出入りの激しい場所に埋設し、女性の胎内への再生を願う妊娠呪術という説や民俗例にもある胎盤収納による新生児の成長発達を願う施設という説などがあります。また、実際に成人骨を埋納した例もあります。

金原前遺跡1号埋設土器では、石棒とセットで出土しました。縄文時代中期後



1号埋設土器写真

葉（約4,000年前）のものです。なお、この埋設土器内の底にもう一つ土器の底部が入れられていました。この底部の上には何がのせられていたのでしょうか。

No. 4 金原前遺跡2号埋設土器

縄文時代中期後葉（約4,000年前）のものです。この埋設土器の底部は、穴が明けられていました。たましい魂が土に返るための穴でしょうか。

No. 5 金原前遺跡3号埋設土器

縄文時代中期中葉（約4,500年前）のものです。横転した状態で検出されました。

No. 6 金原遺跡1号埋設土器

現在調査中のため詳細は不明ですが、縄文時代後期初頭（約3,500年前）のものです。



最近の発掘調査から

宮代町では、毎年2～3件の発掘調査を実施してきました。そのなかには、非常に貴重な遺構や遺物が出土しています。ここでは、それらの遺跡を簡単に照会させていただきます。

No. 1 逆井遺跡

旧石器時代（約13,000年前）の細石器の製作場跡と集石遺構、
縄文時代早期から後期にかけての遺構や遺物が出土しています。

No. 2 山崎南遺跡

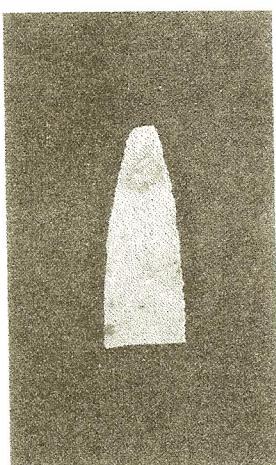
縄文時代後期中葉（約3,500年前）
の竪穴住居が3軒検出されています。滑石
製のペンダントが出土しました。



ペンダント

No. 3 道仏北遺跡

縄文時代草創期（約12,000年前）の尖頭器や縄文時代早期後
葉（約7,000年前）の小竪穴状遺構が1軒、前期中葉（約5,5
00～5,000年前）の竪穴住居が2軒検出されています。小型の
コップ型の土器も出土しています。



尖頭器



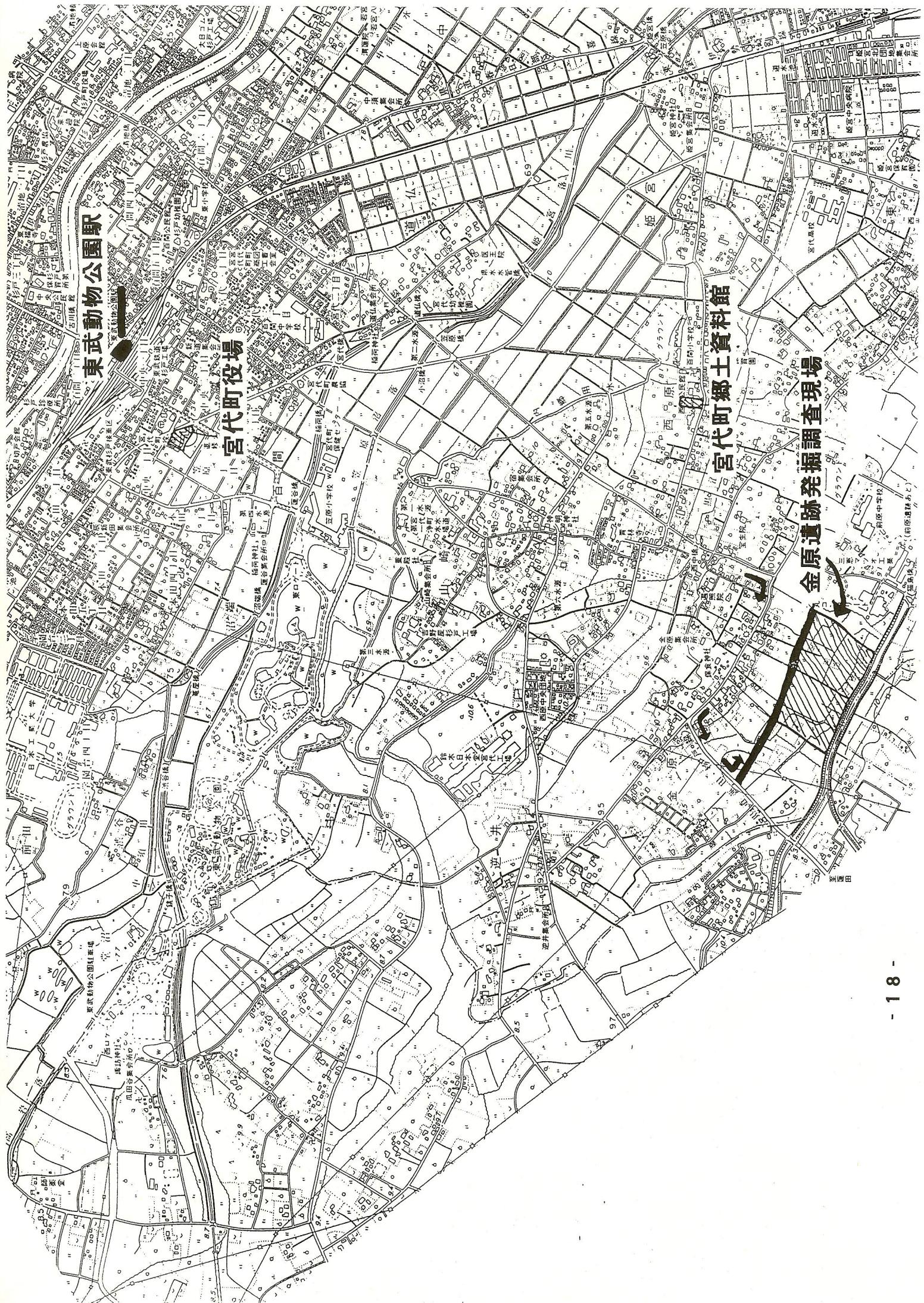
縄文時代前期の土器

No. 4 地蔵院遺跡

縄文時代前期後葉（約5,000年前）の竪穴住居が1軒、江戸時
代約300年前の井戸などが発掘されました。

〔参考文献〕

日本考古学用語辞典	学生社	1992
縄文時代研究辞典	東京堂出版	1994
日本のあけぼの 3 縄文のかたちとこころ	毎日新聞社	1989
縄文まほろば博公式ガイドブック	縄文まほろば博実行委員会	1996
埼玉県立博物館展示解説歴史 I	埼玉県立博物館	1977
新編埼玉県史 資料編 1	埼玉県	1980
春日部市史 通史編 I	春日部市	1994
大宮市遺跡調査会報告 26集 御倉山中遺跡	大宮市遺跡調査会	1989
大宮市遺跡調査会報告 35集 下加遺跡	大宮市遺跡調査会	1992
宮代町史資料第 7 集 宮代の遺跡	宮代町教育委員会	1995
宮代町文化財報告書第 1 集 前原遺跡	宮代町教育委員会	1983
宮代町文化財報告書第 2 集 山崎南遺跡 前原遺跡	宮代町教育委員会	1984



企画展「金原遺跡発掘出土品展」

～金原遺跡へのいざない～

発行年月日 平成9年6月12日

編集発行 宮代町郷土資料館

◎345

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地
郷土資料館

☎0480(34)8882

金原遺跡発掘調査事務所

☎0480(31)0674